

検討の背景と目的

消防庁防災情報室

令和3年1月25日

検討の背景と目的

背景

【現状】

- 近年のICTの急速な進展に伴い、5G等のモバイル通信網の高度化、クラウドサービスの普及、ビッグデータを活用したAI解析技術の進歩、SNS等の新しいコミュニケーション手段の増加など、消防を取り巻く社会のICT環境が大きく変化。
- 一方、従来の消防指令システムは各消防本部、指令センターにおいて独立したシステムとして整備・運用され、多くの本部でパッケージ製品をベースにしつつも、機能追加等の個別カスタマイズを実施。
- 消防指令システムについて、ICT環境変化に対応し、コストの低減や新規技術の取込を行うための環境を整備することが喫緊の課題。

本検討会の取組内容

【目的】

- 近年のICT環境の変化を踏まえた消防指令システムの高度化等に向けた検討を行い、システム調達・維持コストの低減、他組織とのシステム連携による消防活動の効率化、通報手段の多様化への対応、消防業務の効率化等を目指す。

<実現される将来像（イメージ）>

- ・ 外部システムとの連携により、自治体等の関係機関との円滑なデータ連携や、データ通信等による新たな緊急通報手段の導入
- ・ 消防指令システムの一部機能のクラウド化による低コスト化や耐災害性の向上
- ・ 現場映像の円滑な共有や、AI解析等の新しい技術の導入による消防活動の高度化

【検討項目】

- ①消防指令システムに求められる基本的な機能
- ②消防指令システムの将来的なあり方、今後の取組方針
- ③外部システムと接続するための標準インターフェイス等、ICT進展を踏まえたシステム環境整備

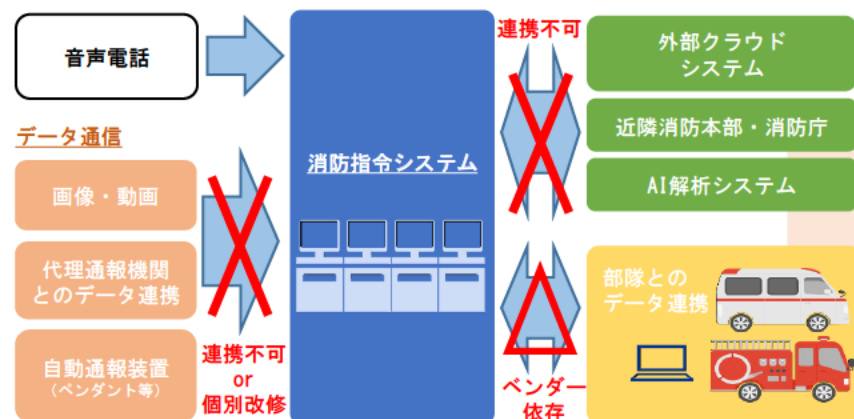
消防指令システムの標準インターフェースの構築

概要

- 消防指令システムの高度化等に向け、まずはデータの出入り口（＝標準インターフェース）を構築し、外部システムとの連携や一部機能のクラウド化、データ通信による緊急通報の受入れ、部隊とのデータ連携、最新技術の導入などを実現するためのシステムの環境整備を行う。
- 消防指令システムの更新が2025年頃にピークを迎えることから、2025年度に更新する消防指令システムへの導入を目標に、要件定義書や標準仕様書の作成に取り組む。

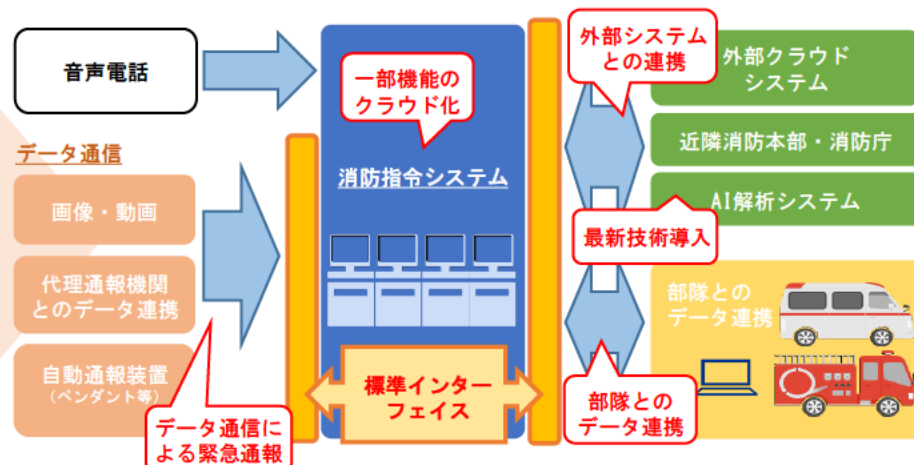
【現状】

- ・ 各本部で独立したシステムとして設計
- ・ 外部システムとの連携は困難であるか、もしくは連携させるシステム毎に多額の費用が必要



【将来（イメージ）】

- ・ 標準インターフェースを導入
- ・ 外部システムとの連携や一部機能のクラウド化など、消防指令システムの高度化・標準化が可能



スケジュール

- 2021年度 : 標準インターフェースの要件定義
- 2023年度 : 標準仕様書の完成
- 2025年度～ : 更新時に消防指令システムへ導入

